

和歌山県から得られたテンジクダイ科魚類の稀種
シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* の北限記録吉田朋弘¹・萩原清司²・本村浩之³¹ 〒 851-2213 長崎市多以良町 1551-8 水産研究・教育機構西海区水産研究所² 〒 238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

(2019年11月14日受付；2019年12月17日改訂；2019年12月18日受理；2020年1月28日J-STAGE早期公開)

キーワード：スズキ目, ヤツトゲテンジクダイ属, 打ち上げ, 串本, 分布

魚類学雑誌
Japanese Journal of
Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 2020

Tomohiro Yoshida*, Kiyoshi Hagiwara and Hiroyuki Motomura. 2020. Northernmost records of *Neamia notula* (Apogonidae) from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan. J. Ichthyol., 67(1): 107-110. DOI: 10.11369/jji.19-047.**Abstract** Six specimens (20.6–30.7 mm standard length) of the rare Indo-West Pacific Gillspot Cardinalfish, *Neamia notula* Fraser and Allen, 2001 (Apogonidae) were collected from a beach (after having been stranded following strong southerly winds) at Sabiura, Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan on 1 March 1982. Japanese examples of the species having been recorded only from Kashiwa Island (Kochi Pref.), Uchinoura Bay (Kagoshima Pref.), and Senaga, Okinawa Island (Okinawa Pref.), the Wakayama specimens represent the northernmost record of the species.

*Corresponding author: Seikai National Fisheries Research Institute, Japan Fisheries Research and Education Agency, 1551-8 Taira-machi, Nagasaki 851-2213, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp)

テンジクダイ科魚類 Apogonidae は、日本から 26 属 103 種が報告されており (馬淵・吉田, 2018; Yoshida and Motomura, 2018; Yoshida et al., 2018a, 2018b, 2019), そのうち、ヤツトゲテンジクダイ属 *Neamia* はカクシヤツトゲテンジクダイ *Neamia articycla* Fraser and Allen, 2006, シキナミヤツトゲテンジクダイ *Neamia notula* Fraser and Allen, 2001, およびヤツトゲテンジクダイ *Neamia octospina* Smith and Radcliffe, 1912 の 3 種が日本から記録されている (林, 2013; 吉田・本村, 2015).

1982年3月1日に和歌山県東牟婁郡串本町鏑浦から6個体(体長20.6–30.7 mm)のシキナミヤツトゲテンジクダイが採集された。日本国内における本種の分布情報は限られており、高知県柏島、鹿児島県内之浦湾、および沖縄県沖縄島から記録

されているのみである (吉田・本村, 2015)。和歌山県産の標本は本種の分布の北限記録となるため、ここに報告する。

計数・計測方法は Fraser (2005) にしたがった。標準体長は体長あるいは SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm の精度で行い、計測値は体長に対する百分率で示した。背鰭棘の計数は軟 X 線写真に基づく。和歌山県産の標本は海岸への打ち上げで得られており、鱗が完全に脱落していたため、鱗に係る計数と記載はできなかった。本報告に用いた標本は横須賀市自然・人文博物館に保管されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通りである：BSKU (高知大学理工学部海洋生物学研究室)；MUFS (宮崎大学農学部海洋生物環境学科)；KAUM (鹿児島大学総合研究博物館)；USNM (スミソニアン

自然史博物館)；WAM (西オーストラリア博物館)；
YCM (横須賀市自然・人文博物館)。

Neamia notula Fraser and Allen, 2001

シキナミヤツトゲテンジクダイ

(Fig. 1 ; Table 1)

標本 YCM-P 46429, 6 個体, 体長 20.6–30.7 mm, 和歌山県東牟婁郡串本町錆浦 (打ち上げ), 1982 年 3 月 1 日。

記載 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1 に示した。体は楕円形で側扁する。第 1 背鰭起部で体高が最も高い。吻は突出する。口は大きく斜位で、主上顎骨後端は瞳孔後端直下に達する。前鼻孔は短い鼻管の先端に開口し、吻端近くに位置する。後鼻孔は孔状で、前鼻孔の斜め上後方、眼窩付近に位置する。上下の顎骨歯は歯帯を形成する。鋤骨には小円錐歯が 2–3 列に並び、V 字状の歯帯を形成する。口蓋骨に歯はない。前鰓蓋骨後縁は平滑である。

第 1 背鰭起部は胸鰭基部上端直上より後方に位置する。第 2 背鰭起部は臀鰭起部直上より前方に位置する。臀鰭起部は第 2 背鰭第 2–3 軟条基部直下に位置する。胸鰭起部は第 1 背鰭起部直下より前方に位置し、その先端は第 2 背鰭第 2 軟条の直下に達する。腹鰭挿入部は第 1 背鰭起部直下より前方に位置し、その先端は臀鰭起部に達しない。尾鰭は円形。

固定後の色彩 体全体は淡黄色を呈する。前鰓蓋骨後端に黒色素胞が密集した瞳孔大の 1 黒色斑があり、その上方には二等辺三角形に黒色素胞が密に分布する。各鰭は透明であるが、尾鰭中央から後方にかけての鰭膜に黒色素胞が分布する。

分布 *Neamia notula* はモーリシャス (Fraser and

Allen, 2001), インドネシア (Allen and Erdmann, 2012), フィリピン (Yoshida and Motomura, 2017), および日本 (吉田・本村, 2015) から知られている。日本沿岸海域では、和歌山県東牟婁郡串本町錆浦, 高知県幡多郡大月町 (柏島), 鹿児島県肝属郡肝付町 (内之浦湾), および沖縄県豊見城市瀬長 (沖縄島) から記録されている (吉田・本村, 2015 ; 本研究)。

備考 和歌山県から得られた標本は、第 1 背鰭が 8 棘 (第 8 棘は皮下に埋没) であること、胸鰭軟条数が 14 であること、胸鰭長が体長の 24.9–26.2% であること、主鰓蓋骨上に 1 黒色斑があり、その上方に二等辺三角形に黒色素胞が分布することなどが Fraser and Allen (2001) と吉田・本村 (2015) の報告した *Neamia notula* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。

ヤツトゲテンジクダイ属は上記日本産 3 種に加えて、ライン諸島に分布する *Neamia xenica* Fraser, 2010 の計 4 種からなる (渋川ほか, 2007 ; Fraser, 2010 ; 吉田・本村, 2015)。シキナミヤツトゲテンジクダイはヤツトゲテンジクダイと比較して、第 8 棘が皮下に埋没すること (後者では埋没しない)、主鰓蓋骨上の 1 黒色斑を欠くこと (有する)、胸鰭軟条数が 14 であること (17–21)、またカクシヤツトゲテンジクダイと *N. xenica* と比較して、主鰓蓋骨上の 1 黒色斑の上方に二等辺三角形に黒色素胞が分布すること (カクシヤツトゲテンジクダイでは黒色斑を取り囲む環状斑がある、*N. xenica* では黒色斑の周囲に黒色素胞を欠く)、胸鰭長が体長の 24.9–26.2% であること (カクシヤツトゲテンジクダイでは 26.0–30.4%) などから識別される (渋川ほか, 2007 ; Fraser, 2010 ; 吉田・本村, 2015 ; 本研究)。

Neamia notula はモーリシャスから得られた 3 個



Fig. 1. Preserved specimen of *Neamia notula* from Kushimoto, Wakayama Prefecture, Japan (YCM-P 46429, 1 of 6 specimens, 30.0 mm standard length).

Table 1. Meristics and morphometrics of specimens of *Neamia notula* from Wakayama Prefecture, Japan

YCM-P 46429		
n = 6		
		Mode
Standard length (SL; mm)	20.6–30.7	
Dorsal-fin rays	VIII-I, 9	VIII-I, 9
Anal-fin rays	II, 8	II, 8
Pectoral-fin rays (left/right)	14 / 14	14 / 14
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Gill rakers	2 + 11–12 = 13–14	14
% of SL		Mean
Body depth	27.2–32.7	30.1
Head length	40.7–44.7	42.6
Snout length	8.1–9.1	8.5
Eye length	12.0–13.7	12.7
Interorbital width	5.2–8.7	6.4
Upper-jaw length	19.9–21.6	20.6
Caudal-peduncle depth	12.6–15.3	14.1
Caudal-peduncle length	20.2–23.3	21.6
1st dorsal-fin spine length	2.6–4.1	3.3
2nd dorsal-fin spine length	8.1–11.0	9.7
3rd dorsal-fin spine length	17.8–20.3	19.0
4th dorsal-fin spine length	16.3–18.9	17.2
1st spine length of 2nd dorsal fin	9.7–12.2	11.0
1st anal-fin spine length	2.3–3.3	2.9
2nd anal-fin spine length	9.7–11.4	10.7
Pectoral-fin length	24.9–26.2	25.5
Pelvic-fin length	23.1–25.0	24.4

体 (USNM 347044, 347045, 349188) に基づき, 新種として記載され (Fraser and Allen, 2001), その後, インドネシア・バリ島沖で撮影された水中写真が報告された (Allen and Erdmann, 2012). 吉田・本村 (2015) は沖縄県沖縄島産の標本 (KAUM-I. 35718) に基づき, 新標準和名シキナミヤツトゲテンジクダイを提唱し, あわせて高知県柏島産の標本 (BSKU 114103) と鹿児島県内之浦湾産の標本 (MUFS 23276) を報告した. Yoshida and Motomura (2017) はフィリピン産の標本 (USNM 169525) を記録するとともに, Allen and Erdmann (2012) によって報告された水中写真の個体が標本 (WAM P.33476) として登録されていることを明らかにした. 和歌山県串本から得られたシキナミヤツトゲテンジクダイは, 本種の北限記録となる.

謝 辞

本報告をまとめるにあたり, 遠藤広光博士 (BSKU), 岩槻幸雄博士 (MUFS), J. T. Williams

博士 (USNM), および G. Moore 博士と M. Allen 氏 (WAM) には標本の調査にご協力いただいた. 以上の諸氏に対して謹んでお礼を申し上げる. 本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた. 本研究の一部は JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とそその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた.

引用文献

Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.

- Fraser, T. H. 2005. A review of the species in the *Apogon fasciatus* group with a description of a new species of cardinalfish from the Indo-West Pacific (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, 924: 1–30.
- Fraser, T. H. 2010. A new deep-water cardinalfish (*Neamia*: Apogonidae) from Kiritimati Atoll, Kiribati. *Proc. Biol. Soc. Wash.*, 132: 153–158.
- Fraser, T. H. and G. R. Allen. 2001. A new species of cardinalfish in *Neamia* (Apogonidae, Perciformes) from Mauritius, Indian Ocean, with a review of *Neamia octospina*. *Rec. West. Aust. Mus.*, 20: 159–165.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科 Apogonidae. 中坊徹次 (編), pp. 826–864, 1979–1986. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- 馬 渕浩司・吉田朋弘. 2018. テンジクダイ科 Apogonidae. 中坊徹次 (編), pp. 248–253. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 渋川浩一・高田陽子・篠原現人. 2007. 奄美大島より得られた日本初記録のテンジクダイ科カクシヤットゲテンジクダイ (新称). *魚類学雑誌*, 54: 219–223.
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2019. Yellow-lined cardinalfish *Ostorhinchus chrysotaenia* (Perciformes: Apogonidae) from Yaku Island, Osumi Islands; first specimen-based Japanese records, with an assessment of the holotype of the species. *Spec. Divers.*, 24: 189–193.
- Yoshida, T., M. Hayashi and H. Motomura. 2018a. *Ostorhinchus yamato*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from Japan. *Ichthyol. Res.*, DOI: 10.1007/s10228-018-0670-3 (also appeared in *Ichthyol. Res.*, 66: 230–238).
- Yoshida, T., K. Mabuchi and H. Motomura. 2018b. *Rhabdamia novaluna*, a new species of cardinalfish (Perciformes: Apogonidae) from the western Pacific Ocean, with comments on the synonymy of *Rhabdamia gracilis*. *Ichthyol. Res.*, DOI: 10.1007/s10228-018-0664-1 (also appeared in *Ichthyol. Res.*, 66: 129–139).
- 吉田朋弘・本村浩之. 2015. 南日本から得られた北西太平洋初記録のテンジクダイ科魚類シキナミヤットゲテンジクダイ (新称) *Neamia notula*. *魚類学雑誌*, 62: 183–188.
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2017. First record of the Gillspot Cardinalfish, *Neamia notula* (Apogonidae) from the Philippines. *Philippine J. Syst. Biol.*, 11: 10–13.
- Yoshida, T. and H. Motomura. 2018. Redescription of the Indo-West Pacific cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) *Rhabdamia spilota* Allen & Kuitert 1994 and *R. gracilis* (Bleeker 1856). *Zootaxa*, 4377: 178–190.